

▼オフセット・クレジットイメージ図



2 豊かな自然と環境を生かした北の元気まち

地球的な規模で課題となっている二酸化炭素の排出量削減について、本町の森林資源を活用し環境省が創設した「オフセット・クレジット」

の一部を外部団体へ移行し、新たな体制で事業の推進を図ってまいります。また、町外から本町への通勤者や従業員の定住化を促すために、民間賃貸住宅の建設支援を行ってまいります。

道道につきましては、国道241号から中心市街地への導入路となります。上士幌土幌音更線の工事が今年

国道につきましては、交通安全対策や防災対策並びに維持管理体制の充実等について、引き続き要請してまいります。

道道につきましては、交通安全対策や防災対策並びに維持管理体制の充実等について、引き続き要請してまいります。

引き続き住宅用太陽光発電システム導入住宅に対する支援をしてまいります。

国道につきましては、交通安全対策や防災対策並びに維持管理体制の充実等について、引き続き要請してまいります。

住民一人ひとりが誇りを持ち
「住みたい町」「住んでみたい町」
「誰もが安心して暮らすことのできる町」
を目指して

平成23年度
町政執行方針 (抜粋)

上士幌町長 竹中 貢



昨年9月に発足した管内閣は、財源・権限を地域に委ね、地域のことは地域に住む住民が決める「地域主権」を重要な政策の柱に位置づけました。しかし関連三法案の見通しは、まったく不透明な状況にあります。

日本経済は月例報告でやや回復の兆しという上方修正がありました。円高やデフレなどにより、国民生活や地域経済は、実感としてきびしい環境が続いております。

平成23年度の地方交付税は、増額が見込まれていますが、北海道開発予算が11年連続で減少するなど、北海道全体としての事業費の縮小が続いており、社会基盤整備や農業基盤整備の遅延が危惧されます。

このような中ではありますが、基幹産業である農林業の振興を軸に農林商工連携事業をはじめ、農村と都市の交流事業、産消協働事業を推進すると共に、「健康・環境・観光」をまちづくりの基本コンセプトとして、本町の豊かな地域資源を活かした特色あるまちづくりを推進してまいります。

特に本年は、道東自動車道(札幌～十勝)の全線開通や帯広空港へのエア・ドゥ参入など、人や物の流れが大

きく変化する年でもあり、地域の魅力づくりや情報発信など、関係機関の連携を一段と強化し「オールかみしほろ」の取り組みを進めてまいります。

また、少子化対策や住宅対策、健康づくりなど、安心・安全で元気なまちを目指した諸施策を展開してまいります。

本町は今年、開町80周年という記念すべき年を迎えています。今日の上士幌町は、多くの先人が筆舌に尽くしがたい苦勞の中で開拓した汗と涙の結晶であります。豊かな郷土を築いてくれた先人に感謝の誠を捧げると共に、本町が未来永劫にわたって発展し、次代の担い手となる子どもたちが、夢と希望を持てる魅力ある上士幌町を築くことが私たちの世代の責務であります。

つきましては、住民一人ひとりが郷土に誇りを持ち、「住みたい町」「住んでみたい町」「誰もが安心して暮らすことのできるまち」を目指してまいりますので、町民の皆さま並びに議員各位には、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

1 参画と協働でつくる
北の元気まち

町内の様々なボランティア活動、アドプトプログラム、町内会、NPO活動などは、まちづくりのパートナーとして大きな役割を果たしています。協働のまちづくりをさらに推進するために、町内のボランティア活動団体やNPO法人などのまちづくり事業に対して支援してまいります。また、農林商工、産学官、都市と農村の連携を「新たな協働」と意義づけ、特産品の開発や起業等の意欲的な取り組みに対しても積極的に支援してまいります。

2010年の国勢調査によると、本町の人口は、前回(2005年)5229人に対し、5078人(2.9%減)と減少したものの減少率に歯止めがかかり、また、国立社会保障人口問題研究所が2008年に発表した2010年、上士幌町の将来推計4837人(7.5%減)と比較すると、241人(5.0%・管内1位)の増となっており、これまで進めてきた様々な定住化政策の成果として表れたものと理解しております。

定住化対策につきましては、引き続き「上士幌町交流と居住を促進する会」を窓口に進捗すると共に、定住化事業を「官から民へ」という、新しい公共担い手育成の観点から事業



▲女性消防団員による独居老人宅訪問

います。昨年、女性消防団員が新たに加入したことから、各種活動を行うための活動車両を導入いたします。また、水難現場にて迅速な救助活動を行うため、救命ボートの導入を行います。

十勝をひとつとした消防広域化につきましましては、実現に向けて具体的な検討作業が行われることから、適宜情報を提供し、その対応を図ってまいります。

近年、国内外で大規模自然災害が多発しており、予測のできない危機への迅速・的確な対応が求められています。

自然災害に關しましては、地域防災計画に基づき対応してまいります。特に災害時要援護者対策や自主防災組織の取り組みの充実を図ってまいります。また、住民の生命、身

3 安心・安全で快適な
北の元気まち

公園につきましては、商工業の活性化やイベントの充実が図られるよう、ふれあい公園に夜間照明や電源設備の整備を行います。

水道につきましては、一昨年井戸を掘削しました東部地区第2ポンプ場を整備するとともに、石綿管の更新を引き続き進め、更に安全・安心な給水体制を目指してまいります。また、上士幌浄水場の再整備に向け、井戸の掘削等を進めてまいります。

消防は、火災その他の災害から住民の生命、身体及び財産を守り、住民生活の安全を確保する役割を担って

体及び財産を保護する責務にかんがみ、国民保護計画に基づき危機管理対策を進めてまいります。

4 大地に根付いた産業を育てる北の元気まち

政府はTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への協議参加を示唆し、「今年6月を目途に交渉参加について結論を出す」との表明がありました。このことは、地域農業の崩壊にとどまらず、地域経済にも壊滅的打撃を与えることから、関係機関と連携し断固阻止に向けて取り組みを進めてまいります。

本年度から本格実施となる「農業者戸別所得補償制度」により、新たに畑作物の所得補償交付金が導入されることとなりました。反収増や品質向上の努力を、より反映される制度となっておりますが、昨年のような異常気象が起きて大幅な減収となった場合など、不安要素も懸念されることから、制度の安定と充実を求めていく必要があります。

一昨年から「ナイタイ高原牧場の運営」、「十勝ナイタイ和牛のブランド化」、「コントラクター・TMRセンター事業の推進」、「農業振興センター敷地の利用及び産業用道路新設」の4本の主要課題を柱に据え、関係団体とともに取り組みを進めて

きたところであります。これらは、昨今の厳しい農業情勢の中で、地域農業の生き残りや再構築に向けての戦略的な政策課題であり、引き続き具現化に向けて鋭意努力してまいります。

今年の国営かんがい排水事業は、上音更地区の本体工事が完了予定であり、上音更北地区は調査設計事業が着手されることとなりました。

ナイタイ高原牧場の管理運営につきましては、良質粗飼料を確保し、的確な飼料設計による草地・家畜管理や人件費の縮減などによる効率化を図りながら、その改善に努めてきております。なお、今後の牧場事業や運営形態につきましては、抜本的見直しの視点で対応を図ってまいります。

林産業につきましては、地球温暖化や雇用対策の観点からも、本町林産業の振興を目的に、林業経営者基盤整備の支援や健全な山林育成の造林事業、担い手の雇用対策や労働安全対策など、積極的な事業展開を図ってまいります。

商工業につきましては、地元購買力の向上と定着を図るために商工会等が実施する各種サービス事業等に対して支援してまいります。

地場産品を利用した農林商工連携による特産品の研究開発、新商品新サービスの開発に向けましては、一昨年設けた農林商工等連携促進事業

4 大地に根付いた産業を育てる北の元気まち

体及び財産を保護する責務にかんがみ、国民保護計画に基づき危機管理対策を進めてまいります。

政

府はTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への協議参加を示唆し、「今年6月を目途に交渉参加について結論を出す」との表明がありました。このことは、地域農業の崩壊にとどまらず、地域経済にも壊滅的打撃を与えることから、関係機関と連携し断固阻止に向けて取り組みを進めてまいります。

本年度から本格実施となる「農業者戸別所得補償制度」により、新たに畑作物の所得補償交付金が導入されることとなりました。反収増や品質向上の努力を、より反映される制度となっておりますが、昨年のような異常気象が起きて大幅な減収となった場合など、不安要素も懸念されることから、制度の安定と充実を求めていく必要があります。

一昨年から「ナイタイ高原牧場の運営」、「十勝ナイタイ和牛のブランド化」、「コントラクター・TMRセンター事業の推進」、「農業振興センター敷地の利用及び産業用道路新設」の4本の主要課題を柱に据え、関係団体とともに取り組みを進めて

きたところであります。これらは、昨今の厳しい農業情勢の中で、地域農業の生き残りや再構築に向けての戦略的な政策課題であり、引き続き具現化に向けて鋭意努力してまいります。

今年の国営かんがい排水事業は、上音更地区の本体工事が完了予定であり、上音更北地区は調査設計事業が着手されることとなりました。

ナイタイ高原牧場の管理運営につきましては、良質粗飼料を確保し、的確な飼料設計による草地・家畜管理や人件費の縮減などによる効率化を図りながら、その改善に努めてきております。なお、今後の牧場事業や運営形態につきましては、抜本的見直しの視点で対応を図ってまいります。

林産業につきましては、地球温暖化や雇用対策の観点からも、本町林産業の振興を目的に、林業経営者基盤整備の支援や健全な山林育成の造林事業、担い手の雇用対策や労働安全対策など、積極的な事業展開を図ってまいります。

商工業につきましては、地元購買力の向上と定着を図るために商工会等が実施する各種サービス事業等に対して支援してまいります。

地場産品を利用した農林商工連携による特産品の研究開発、新商品新サービスの開発に向けましては、一昨年設けた農林商工等連携促進事業

補助制度が活用され、地場産加工品を組み合わせた新商品が開発・販売されるなどの成果も現れてきているところであります。今年度も引き続き、専門員の配置など連携の促進に向け側面的支援を図ってまいります。

インターネットショップがオープンし、町内特産品の販売が行われておりますが、町のPR及び情報発信のツールとしてだけではなく、ネット通販による販路の拡大など経済的実効が上がるよう必要な支援を行ってまいります。

商工会が町内7区に「かみしほろ情報館」を開設したところであり、インターネットショップがオープンし、町内特産品の販売が行われておりますが、町のPR及び情報発信のツールとしてだけではなく、ネット通販による販路の拡大など経済的実効が上がるよう必要な支援を行ってまいります。



▲新たな情報発信拠点として、「かみしほろ情報館(町内7区)」が1月にオープン。事務所では、インターネットショップ「十勝かみしほろん市場」をはじめとした農林商工連携事業を推進。



▲インターネットショップ「十勝かみしほろん市場」
<http://shop.kamishihoron.com/ichiba/>

補助制度が活用され、地場産加工品を組み合わせた新商品が開発・販売されるなどの成果も現れてきているところであります。今年度も引き続き、専門員の配置など連携の促進に向け側面的支援を図ってまいります。

インターネットショップがオープンし、町内特産品の販売が行われておりますが、町のPR及び情報発信のツールとしてだけではなく、ネット通販による販路の拡大など経済的実効が上がるよう必要な支援を行ってまいります。

商工会が町内7区に「かみしほろ情報館」を開設したところであり、インターネットショップがオープンし、町内特産品の販売が行われておりますが、町のPR及び情報発信のツールとしてだけではなく、ネット通販による販路の拡大など経済的実効が上がるよう必要な支援を行ってまいります。



▲新たな情報発信拠点として、「かみしほろ情報館(町内7区)」が1月にオープン。事務所では、インターネットショップ「十勝かみしほろん市場」をはじめとした農林商工連携事業を推進。



▲インターネットショップ「十勝かみしほろん市場」
<http://shop.kamishihoron.com/ichiba/>

平成23年度 教育行政執行方針(抜粋)



◀上士幌高校～乳幼児との触れ合い体験学習

を要する児童については、特別支援教育支援員を複数名配置し、生活・学習活動の支援を行ってまいります。先に制定した「かみしほろの健やかな育ち」の活用については、「地域全体で子どもたちを守り育てる」ことを目指し、家庭・学校・地域が連携・協力して考え、語りあいが取り組みを進めます。

高度情報通信ネットワーク社会が進展していく中で、情報の活用能力の基礎を育成することが重要であることから、町内全校の教育用コンピュータの更新を行いました。引き続きコンピュータ等を活用した情報教育の充実を図ってまいります。

また、本年度から本格導入される小学校高学年の外国語活動は、学級担任や外国語指導助手を中心として取り組み、小学校における総合的な学習の時間を活用した国際理解教育を充実させてまいります。

本町の教育行政の充実をより一層図るため、豊富な教育経験を有し、かつ広範囲な教育行政の執行に対応できるように、引き続き教育専門員を

配置し、教育全般の振興と課題解決に努めてまいります。

北海道上士幌高等学校は、地元中学校卒業者の減少や進路志向の多様化に伴い、入学予定者の確保が非常に困難な状況が続いております。今年度は上士幌高等学校振興会、上士幌高等学校、町が一体となり生徒募集対策を行い、近年にない生徒の確保が見込まれます。引き続き存続に向けた上士幌高等学校の魅力の発信や振興策、今後の学校のあり方等について検討を進めてまいります。

学校施設は、適正な維持管理に努めるとともに、各施設の状態を把握し、計画的な改修・修繕を行ってまいります。

改築された上士幌中学校校舎は、昨年より供用開始を行い、良好な環境のもと授業が取り組まれております。

また、小学校再編に伴いまして、空き教室を利用した放課後対策、スクールバスの増車、街路灯の臨時設置、少年団活動後の中学校部活便バス利用など、児童の負担軽減と安全に努めるとともに、上士幌小学校バスタッチ等整備事業を実施し、児童の安全・安心を大前提とした通学対策を進めてまいります。

児童・生徒の安全・安心の確保のため、学校施設の耐震化は喫緊の課題であり残された糠平小学校校舎・屋体の耐震性の問題については、P T

地域ぐるみで子どもを育てる
教育行政の推進を

平成23年度 教育行政執行方針(抜粋)

上士幌町教育委員会委員長 島口 重一



教育を取り巻く環境は、我国の経済状況の悪化による雇用・生活不安の増大や少子高齢化の一層の進行、高度情報化の進展とモラルの低下などを要因として大きく変化しており、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、家庭・地域の教育力の低下などの課題が指摘されております。

その様な中で、本教育委員会としては、教育を取り巻く環境の変化を踏まえて、家庭・学校・地域や関係団体・機関との連携を図りながら、教育行政の推進を行います。



▲上士幌中学校新校舎

1 生涯学習の推進

生涯学習は、町民の各年齢層に対応できる学習情報の提供や学習機会の確保に努めるとともに、各種イベントなどを実施して町民の交流を深めてまいります。また、急激な社会の変化に町民が主体的に対応できるように、地域の特性を生かした生涯学習機能の基盤整備や、学習諸活動等の推進を支援してまいります。課題となつている生涯学習のあり方や、生涯学習推進協議会等の組織やその役割などについては、引き続き、まちづくりアドバイザー(生涯学習)の活用を図り、見直しや検討を進めてまいります。

2 学校教育の充実

生涯学習センターは、適正な維持管理に努めておりますが、旧児童会館部分は建設から44年が経過し、耐震性の課題もあることから、改築に向けた検討を具体的にまいります。また、新館部分は建設から20年が経過し、老朽化が進んでおりますので、計画的な改修・修繕を行ってまいります。

学校給食センターは、引き続き、衛生管理、施設管理、食材の安全管理を徹底し、より一層の安全対策に努めてまいります。また、賄材は、国内食材を中心に使用することとし、地産地消、地域で生産される食材等も念頭においた献立の研究などを行い、安全・安心で低廉なおいしい給食の提供をできるよう努めてまいります。

3 社会教育の推進

第6期社会教育中期計画の最終年を迎えるなか、第7期社会教育中期計画の策定を行い、少年教育、高齢者教育はもとより、家庭の教育力向上に向けて、各種学習の機会を提供できるように努めてまいります。

学校の教育活動の支援を学校・地

後の教育動向を見据えながら、生き生きとたくましい児童・生徒を育ていくため、確かな学力の育成や豊かな心と健やかでたくましい心身を育み、情報化や国際化など社会の変化に的確に対応した教育を推進し、地域に開かれた学校づくりを進めてまいります。

上士幌小学校の低学年における基礎・基本の確実な定着と個性や能力に応じた補充・発展的な学習の充実を図るため、道の指導方法工夫改善加配教員の他に、町独自に学校教育推進支援教員を配置し、ティーム・ティーチングによる理解度に応じた個別指導を実施してまいります。

一方、道教委の事業を活用して巡回指導教員の配置を行い、へき地小学校を含めてきめの細かい指導を進めるところです。上士幌中学校においても、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教科指導の実施のため、ティーム・ティーチングや少人数指導などの取り組みを行ってまいります。

また、特別支援教育の推進については、特別支援教育コーディネーターを中心とした全校的な支援体制を確立し、特別支援を要する児童生徒に対する指導の充実のため、引き続き上士幌町特別支援教育振興会や上士幌町子ども発達支援センター等と連携し、本町での特別支援教育の充実を図ってまいります。特に介助

4 文化の振興と文化財の保護活用

わが町が持つ80年の歴史への理解を深め、地域の人々が持ちえる個性を活用した豊かな地域文化の創造に努めてまいります。

町文化協会をはじめ、芸術鑑賞会、「火群」編集委員会、地域の宝さがしの会など自主的な活動に対し、引き続き助成してまいります。

5 社会体育の振興

子どもから高齢者までの健康志向型スポーツ活動の推進については、体育連盟や関係団体との連携を図り、日常生活の中でスポーツに気軽に親しむ環境づくりを進めるなど、スポーツレクリエーションの普及・推進に努めてまいります。

また、少年団及び体育団体・サークルを支援するとともに、その団体等の自主的な活動の促進を図り、生涯スポーツ社会の実現に向けた意識の啓発や環境の整備に努めてまいります。